



2030 年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋 1 9 6 3

(株)エホ*リユ-ション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net

<https://3c-mie.net/>



多くの感動を生み出した甲子園の話題も終え、暦の上ではもう秋、里山ではトンボの姿を多く見る機会が増えました。しかし気象情報では、9月に入っても危険な暑さが続くようです。

また、先月は線状降水帯の発生から多くの水害が発生しましたが、今月は加えて台風の被害が心配されます。

最近では、熱中症だけでなく自然災害の懸念が広がる時代となっています。

しかし自然災害といいながらその根源は人災であるかもしれません。地球温暖化現象を何とかしなければならぬと言われて久しく、SDGsのゴール年まで 5 年となっていることを考えると目標が未達どころか当初より後退している感があります。

私たちは地球規模の活動は、なかなかできませんが日々の身近な取り組みで「すべての人々にとってより良い世界を築くこと」という SDGs の理念を大切に考えていきたいと思ひます。

この度、そうした思いに呼応していただき仲間になっていただいた法人会員「三重電子株式会社」の林社長にご投稿をいただきました。

三重電子の「スマイル経営」



代表取締役社長 林 雅哉 氏

今年度から会員になりました明和町にある三重電子株式会社と申します。電気、機械、医療・福祉機器などの設計と製造をしています。

私たちは、経営理念に「その先の笑顔をつくる Creating smiles beyond.」を掲げています。これは、「私たちの会社に関わる全ての利害関係者を笑顔にしよう」という願いを込めています。この利害関係者には、お客様のみならず、取引先、社員、社会・地域、環境、未来といった幅広い範囲を含んでいます。近江商人の「三方良し」を超え、「六方良し」であり、またそれは最近の SDGs にもそのままつながります。私は、SDGs の取り組みと言うよりは、経営理念に紐づけて「スマイル経営」と呼びたいと考えています。



工場全景

事業とは、また仕事とは、利に敏く、競争を出し抜き、費用をとことん削って、社員には常に緊張感を強いて進めるものであるならば、余りに窮屈で寂しい。いくらお客さんが喜んでくれ、お金を落としてくれても、社員が疲れ果て、取引業者には厳しく、地域や社会と隔絶したような会社では、長続きしないでしょう。会社とは、社会に喜んでもらって、利益を得る尊い営みをする組織であると考えます。そして、社会の喜びは、上限のある一定量で、それを奪い合うのではなく、それぞれの会社が新たな価値を産みだしていければ、過度に奪い合わなくても済みます。もし、社員の心がつらいようでは、新たな価値を生み出すこともできないでしょうし、社会を笑顔にすることはできないでしょう。



地域清掃活動

事業において、私たちが作る財が「楽しい」、「助かった」、「楽になった」といった笑顔をつくり出せることを願っています。また、会社運営を良きものにして、他社の学びになるような経営にしたいと考えています。それらは、「健康経営優良法人ブライト 500^①」や三重県の「とこわか健康経営大賞^②」などでの成果に表れ、その事例発表を通じて、他社の参考にしてもらうことを期待しています。社員が笑顔になってもらう取り組みとして、生涯、飯を食っていける力を身に付けてもらうことを目的として、①職業人としての将来像「キャリアビジョン」を作ってもらい、②それを実現するための人材育成制度「MEC カレッジ」を運用しています。「MEC カレッジ」とは、仮想的な社員教育機関として、外部講習、社内勉強会、体験型の研修などを統合した制度として運用しています。

社会や地域、未来を笑顔にする活動として、年に数回行う地域の清掃活動や地元の祭りやイベント、こども食堂などへの寄付をしています。利益の処分方法として、納税を通じて間接的に社会に貢献することに加えて、寄付などは直接的に自分たちが考える良きことに拠出することができます。

社員には、地域活動を通じて、より広い視点を持ってもらうことを目的として、昨年度から年 5 日の有給の「ボランティア休暇制度」を始めました。環境を笑顔にする活動として、電気の使用量や DX 化による印刷紙の削減に取り組んできました。加えて、伊勢市の「トイレの紙さまプロジェクト^③」に賛同して、紙ごみの収集を始めました。プラスチックごみの分別・供出も進めて、ごみの総量を減らす取り組みを行っています。

社員の働きやすさや働きがい考えた時、まずは、安定したしごとと収入があること、そして個人として会社として将来が一定程度見通せることが重要だと考えます。未来への見通しが、安住や無自覚な停滞では無く、投資や研鑽につながると考えます。会社として、まっとうな戦略とまっとうな経営をして、まっとうな収益をあげることに。それをもとに社内の制度を拡充させていくこと。そして社会の動きを見すえて、事業の種まきをして、将来の見通しを立てることが本当の社員の笑顔に通ずると考えます。まだまだ道半ばですが、そういう会社になりたいと考えています。



外部講師を招いた社内勉強会

解 説

(事務局作成)

① 健康経営優良法人ブライツ 500

経済産業省が推奨する認定制度において上位500における中小企業に付与される健康経営優良法人制度

② とこわか健康経営大賞

三重県が、1日の大半を過ごす職場での健康づくりに積極的に取り組み、特に優れた健康経営を実践している企業などを表彰する制度

③ トイレの紙さまプロジェクト

感熱紙やカーボン紙、写真など再利用しにくい紙類を回収・再生し、トイレトーパーをつくる伊勢市が進める取り組み



ネットワーク会員間のご縁による地域の活動紹介

亀山市の草川卓也市議と鈴鹿医療科学大学の神蔵教授の会員交流によって実現！
8月19日に亀山市内にて神蔵教授が顧問をされている学生サークルの皆さんによる
応急手当講座が実施されました。



今月21日は、同学生サークルのみんなが玉城町の小学生 4 年生から 6 年生のみなさんを対象に「こども119」と称して救急救命をゲーム感覚で体験するプログラムが実施されます。
最近、映画「TOKYO MER～走る緊急救命室」が話題だそうです、子供たちに命の大切さと救急救命を実感してもらえる良い機会になればと思います。

県内で唯一救急救命学科がある鈴鹿医療科学大学のこの学生サークルの活動を県内広く広げていきたいということです。是非お声掛けをいただければと思います。“ネットワークみえ”にご連絡ください。

(事務局後記)